

SUPPORTERS VOICE

地域の価値を一緒につくる、島根大学の共創パートナー

島根県農業協同組合 JAしまね

左から／ 営農対策部 次長 山下 稔之さん
営農対策部 部長 福田 尚夫さん
営農対策部 営農統括監 鳥屋尾 健史さん



連携で生まれる地域農業の可能性と価値

島根県農業協同組合（JAしまね）と島根大学は2023年2月に包括協定を締結し、地域課題×農業を軸に栽培技術の研究・普及、農業振興につながる取り組みを持つ「JAしまね」と、研究ノウハウや知見を持つ大学が協力することで、これまで生産者の経験によっていた栽培技術や手法が見える化（データ化・数値化）され、より説得力をもった農法の普及につながるなど、持続可能で発展していく農業としての確立が注目されています。



有機農業の魅力を知ってもらうために島根大学の学食で提供した「野菜たっぷりオーガニックnaキーマプレートランチ」。地域人材育成コースの学生たちと5ヵ月かけて開発。12月8日～15日（土・日曜除く）で300食が提供された。

占める割合が全国でも上位でありながら、その認知度がまだ低いことから、「未利用資源を利用した堆肥・有機肥料製造技術の確立」の研究をはじめとした有機農業の推進に関するプロジェクトがスタートしました。昨年12月には、「有機農業の日」にあわせて島根大学の学食でオーガニックランチが提供されました。「満足度が高く、地産地消や食品価値の意識変化も見られるなど、実施することで見えた課題、気づきがありました。なにより学生が有機農業に関心を持ち、モチベーションアップに繋がるなど教育面でも評価できる取り組みとなりました」と、JAしまねの福田さん。また同組合のインターシップには14名が参加するなど学生の地域農業へ理解・関心度は高くなり、農業と関わる新しい関係人口構築にも一翼を担っている取り組みといえます。「地域農業に関心を持ってくれる若者と一緒に地域一丸となって島根の農業価値を生み出していけたらいいですね」と、シーズとシーズの融合で始まる地域農業のカタチが期待されています。

産学官連携はオープンイノベーション推進本部へ！

連絡先 オープンイノベーション推進本部
URL <https://www.openinnov.shimane-u.ac.jp/>

オープンイノベーション推進本部は、産学官連携の推進を図り学内外のネットワークを強化し、産学官連携の共同研究を通じてその研究成果を社会に還元し、地域産業の振興やイノベーションを創出する皆様の真の共創パートナーを目指します。



オープンイノベーション推進本部長 亀井 淳志

古代出雲文化フォーラムに参加

3月9日、広島国際会議場にて「古代出雲文化フォーラムXI」が開催されました。古事記編纂1300年にあたる平成24年度から全国各地を毎年巡り、広島での開催は今回で2回目。今回のテーマは「古代出雲と備後」です。

第1部では、島根大学総合博物館の館長・教授である會下和宏氏が「弥生時代の備後・安芸と出雲・石見の交流」をテーマに講演。弥生時代の中国地方における広域交流のちの古墳時代へとつながっていると話されました。続いて、三次市教育委員会文化と学びの課主任主事、藤川翔氏による講演「国史跡寺町廃寺跡が語る備後と出雲」が行われ、平安時代初期に編まれた、日本最古の仏教説話集『日本霊異記』に登場する「三谷寺」と当該史跡の関係性についての解説がありました。次に、島根県教育庁文化財課古代文化センター主任研究員である橋本剛氏が登壇。「出雲と備後を結ぶ道」をテーマにした講演が行われ、「出雲国風土記」は他の残存

風土記に比べ、交通路の記載が充実していることについて触れられました。

第2部では、島根大学法文学部准教授・平郡達哉氏が登壇し「石見銀山遺跡から広がる島根大学の取組」について発表。最後には、島根大学材料エネルギー学部部長の三原毅氏が登壇し、令和5年度より新設した同学部の取組を紹介しました。

参加した40代と10代の親子は「島根と広島に歴史的な繋がりがあることに興味を持ち、調べてみたいと思っただ。古事記の内容や繋がりについての説明が分かりやすく、来てよかったと話し、90歳の男性は「出雲のみに風土記の記録が残っていることは興味深い。また大学として、それを現代に生かす社会に貢献しようと活動していることは素晴らしいと思う」と感想を述べられました。全国的に季節外れの寒さが戻ったこの日、広島市内も肌寒い天気でしたが、会場は満席。遠方から来られている方も多く見られ、誰もが講演に没頭していました。



取材 田崎 航

Let's 学生広報サポーター

取材 稲垣 亮太

式典後、不安と期待を胸に抱いた新入生数名に話を聞きました。新入生代表の宣誓を務めた法文学部 中澤咲也香（なかざわさやか）さんは「地域の良さを見つけることができそう。社会人になる前に自立に向けた経験を積んでいきたい」と新たな環境への意気込みを力強く語ってくれました。総合理工学部 中島望来（なかしまみらい）さんは「勉強

だけでなくボランティア、サークルなど新しい経験をし、就職に活かしたい」と目標を語り、同じく工学部 片岡翔弥（かたおかさくや）さんは「専門的な知識を学びながら夢を具現化していきたい」と答えてくれました。「起業家教育というカリキュラムが魅力」と開設2年目の材料工ネルギー学部を選んだ川上凌輝（かわかみりく）さんは学内外での交流に期待を寄せていました。

令和6年度入学式に潜入取材

4月2日（火）くにびきメッセにて実施された令和6年度島根大学入学式。満開の桜の下で行われる入学式の様子を取材しました。大谷浩学長は祝辞で「SDGsやカーボンニュートラルなどの取組を通じて世界的な課題を主体的にとらえ、教職員とともに



解決策を探してほしい」と新入生への熱い期待を寄せていました。続いて丸山達也島根県知事は、自身の大学生時代を振り返りつつ「新しい生活や勉強に慣れたら、自分のベースで興味を深めよう」とエールを送られました。

今年度は学部生の時に新型コロナウイルス感染症により対面での入学式が叶わなかった学生が大学院生として入学する年でもありません。この春大学院に進む学生からは「実際に入学式に足を運んで、入学したという実感がわきました」という声も聞かれ、入学式の看板を前に写真を撮る新入生やその家族の姿に改めて対面での入学式を実施できる素晴らしいことを実感しました。

島根大学での生活がより楽しく過ごせることを学生広報サポーター一同願っています。



（学生広報サポーター）取材 田崎航、稲垣亮太、立畑泰征 島根大学企画広報課 撮影